

2025年度 緑が丘こひつじ保育園 事業報告

1. 園の概要

(1)基本情報

- ①園の名称:緑が丘こひつじ保育園
- ②住 所:八千代市緑が丘西1丁目10番5
電話番号:047-409-3939 Fax番号:047-409-3955
ホームページアドレス:<http://www.ainosono.or.jp/kohitsuji>

(2)在籍園児の状況(月別・クラス別)2024年度 在籍園児数年間人数集計表

	5歳	4歳	3歳	幼児計	2歳	1歳	0歳	乳児計	合計	割合
4月	19	20	19	58	20	19	6	45	103	94%
5月	19	19	19	57	20	20	7	47	104	95%
6月	19	19	19	57	20	20	7	47	104	95%
7月	19	19	20	58	20	20	9	49	107	97%
8月	19	19	20	58	20	20	9	49	107	97%
9月	19	19	20	58	20	19	9	48	106	96%
10月	19	19	20	58	20	19	9	48	106	96%
11月	19	20	20	59	21	19	11	51	110	100%
12月	18	20	19	57	23	20	12	55	112	102%
1月	19	20	19	58	23	20	12	55	113	103%
2月	19	20	19	58	23	19	12	54	112	102%
3月	19	20	19	58	23	20	12	55	113	103%
合計	228	234	233	695	253	235	115	603	1298	98%

(3)定員充足率(毎年度 3月末現在)

2025年度	2024年度	2023年度	2022年度	2021年度
98%	99%	113%	118%	103%

(4)職員の概要（4月1日現在）

○常勤職員		○非常勤職員		○委託医	
園長	1名	保育士	13名（派遣4名）	委託内科医	1名
主任保育士	1名	時間外従事者	2名	委託歯科医	1名
保育士	9名	一時預かり	1名		
栄養士	2名		16名		
事務員	2名				
看護師	1名				
調理師	1名				
17名					

2. 事業の概要

中長期的な計画（人事・保育・施設・財務等）及び事業計画の進捗達成状況

【人事】

2年目を迎える職場環境改善アンケート結果から、「働きがい」と「エンゲージメント」の向上が次期の重点課題として明確になった。現場の実態としては、職員一人ひとりの業務遂行能力が必ずしも十分ではない中で、人手不足が重なり、これが「業務量の多さ」や「心理的負担」として表面化している。この要因により、最優先課題であった「定員の弾力化」が実現できなかった原因と考える。アンケートでは約6割の職員が業務の負担感を訴え、その中で「働きがい」「働きやすさ」「業務量の見直しと効率化」を課題に取り組んだ。先生方への聞き取りの中で、事務時間の確保ができず勤務時間外で行っているものを洗い出し、正しく手当を出して業務を行い、その中で書類作成を簡略化し、実務にかかる時間を5時間～8時間削減できるよう整理した。またインターホンのICカード化は朝夕の保育中のインターホン対応がなくなり子どもに向かう時間の確保及び、事務職員の負担軽減にも直結した。

エンゲージメントの低さを改善するのに必要なことは、職員の声を聞く時間を設け、職員一人ひとりを理念に沿って正しく評価し、「園や同僚、地域の力になっている」という実感を得られるようにする必要がある。結果として人材の離職防止に繋げ、新規採用については養成校との関わりの継続及び単独の就職説明会の実施と実習生の受け入れ、その他の求人方法を取り入れることが必要である。

【保育】

児童発達支援センターとの連携によりインクルーシブ保育を目指す取り組みをスタートした年度であった。毎月行うクラスごとの連携会議で子ども一人ひとりに寄り添った情報共有を行い、小集団の支援からクラスの集団に戻ることを前提に関わり、園の行事に取り組む過程での連携を行ってきた。手探りではあるが、会議や行事を通して子どもの姿から振り返ると継続した関わりが必要である。その他、園行事への保護者参加を増やし、保育を保護者に直接見ていただくことで保護者の安心感に繋げ、職員のやりがいに繋げていった。実際に保護者との顔を合わせた関わりが職員・保護者どちらも満足度をえている。しかし、日常業務の中で保育の「質の維持」と「弾力化」に課題を残した。職員の自己肯定感が高く日々の保育への情熱はあるが、客観的な視点では保育技術や配慮の底上げが求められる。現在は多忙感が先行し、定員を受け入れるまでで止まって

しまい、結果として目標であった「弾力的な園児受け入れ」ができずに終わった。今後は人員の確保及び行事や事務作業の精査やSNS情報発信等の見直しを行い、現場の「心のゆとり」を創出することが最優先である。

【施設】

開園6年目を迎え、パソコン機器の入れ替えと門扉のICカード化を大きな環境整備として行った。これらは本来、職員の事務負担を物理的に軽減し、保育の質に還元するための投資であったが、アンケートの結果を反映すると、機器を十分に使いこなすスキルの不足もあり、さらに業務効率化できることを増やす必要がある。屋外環境については、地域ボランティアの協力を得てバラ園の整備を継続し、地域の方にも楽しんでいただける環境を維持した。これらのハード面の充実は、職員の「働きやすさ」を支える基盤ではあるが、それを活用するソフト面（職員の能力）が追いついていないことが課題である。今後は、導入した機器の活用習熟度を高めるとともに、2027年度の認定こども園化に向けた施設基準の精査や、効率的な施設運用によるコスト意識の醸成を推進していく。

【地域への子育て支援】

一時預かり事業の継続に加え、今年度は「千葉県障害児等療育支援事業（すくすくのびのび）」を開始し、地域の子育て世帯への専門的な相談窓口として活動を行った。年間で7組の相談を受け、併設の相談支援へと支援を繋げることができた。今年度は相談支援のみの対応でしたので、次年度は支援センターの専門職との連携をとり、相談支援に加えて療育支援まで支援を広げ、地域の相談窓口を担えるようにしていく。

3. 財務の概要

①借入金の状況

借入先	期首残高	当期償還額	差引期末残高	利率(%)	償還期限
(独)福祉医療機構	20,532,000	2,124,000	18,408,000	0.230	2034.11
千葉銀行 酒々井支店	140,168,000	4,832,000	132,920,000	1.900▶2.150	2044.07

(3)経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対策

指標名	目的	目安となる数値	こひつじ保育園の現状と分析	悪化した場合のリスク
人件費比率	支出のバランス確認	60% ～ 70%	77.4% 数値は高い状態です。これは「職員に給与を払いすぎている」のではなく、「人手不足を埋めるための高額な派遣費用」が原因です。	設備投資への圧迫、または職員の離職
本業の収支差額比率	本業の黒字化確認	3% ～ 5%以上	1.7% 「黒字ではあるが、非常に危険なほど薄い」状態です。本業でのお金の残りが少なくなっています。少しでも園児数が減ったり、突発	慢性的な赤字体質への転落

			的な支出(修繕など)があれば、すぐに本業がマイナス(赤字)に転落するリスクを抱えています。	
事業活動資金収支差額	現金創出力の確認	プラスであること	3,230,374円のプラスを創出できています。しかし、次で述べる「過去の投資(借入金)の返済」という大きな支出が控えているため、この「323万円」という金額が十分であるかどうかが次の焦点になります。	貯金の切り崩し、借入返済の停滞
支払資金残高保有月数	資金ショート の防衛	2か月 ~ 3か月以上	▲0.12ヶ月ということは、「手元の現預金が底を突き、資金ショート(債務超過状態)を起こしている」ことを意味します。	不測の事態での資金繰り破綻(倒産)

2025年度は、4月当初の103名(充足率94%)から年度途中の受け入れを推し進め、3月末現在では113名(充足率103%)まで受け入れ枠を拡大した。しかし、年間平均は107.5名(充足率98%)に留まり、期前半の出遅れや職員の配置・能力的な限界から、最優先課題であった「定員の弾力化」を年間通して十分に達成するまでには至らず、足踏みする結果となった。園児の受け入れに対して採用が追いつかず、深刻な人手不足を補うために高額な派遣職員に頼らざるを得ない状況が続き、本来であれば直接雇用(正職員・パート)でコストを抑えるべきところ、派遣費用がかさんだことで人件費支出(148,697,616円)が大きく膨らんだ。この影響から人件費比率は77.4%と目安を超過し、経営を強く圧迫している。結果として、本業の現金収支(事業活動資金収支差額)は3,230,374円の確保に留まり、施設借入金の返済(9,372,000円)や事務費(バックオフィス導入費用等)を賄いきれず、支払資金残高保有月数は▲0.12ヶ月と厳しい資金繰りが続いている。今後は、拡大した定員枠を維持しつつ、派遣から直接雇用への切り替えによる「人件費の抑制」を進め、持続可能な財務基盤の確立を急ぐ。